

第24回 青空ミュージアム in 段之原山遺跡



発掘調査風景

今年の夏は暑かった。でも古代も暑い夏の日があったろう・・・

この地に住んだ弥生の人々はどうやってこの暑さをしのいでいたんだろうか・・・

昔の人のくらしが知りたい・・・そんな素朴な思いから歴史のひもときは始まります。

平成16年11月20日(土)

安芸区上瀬野町

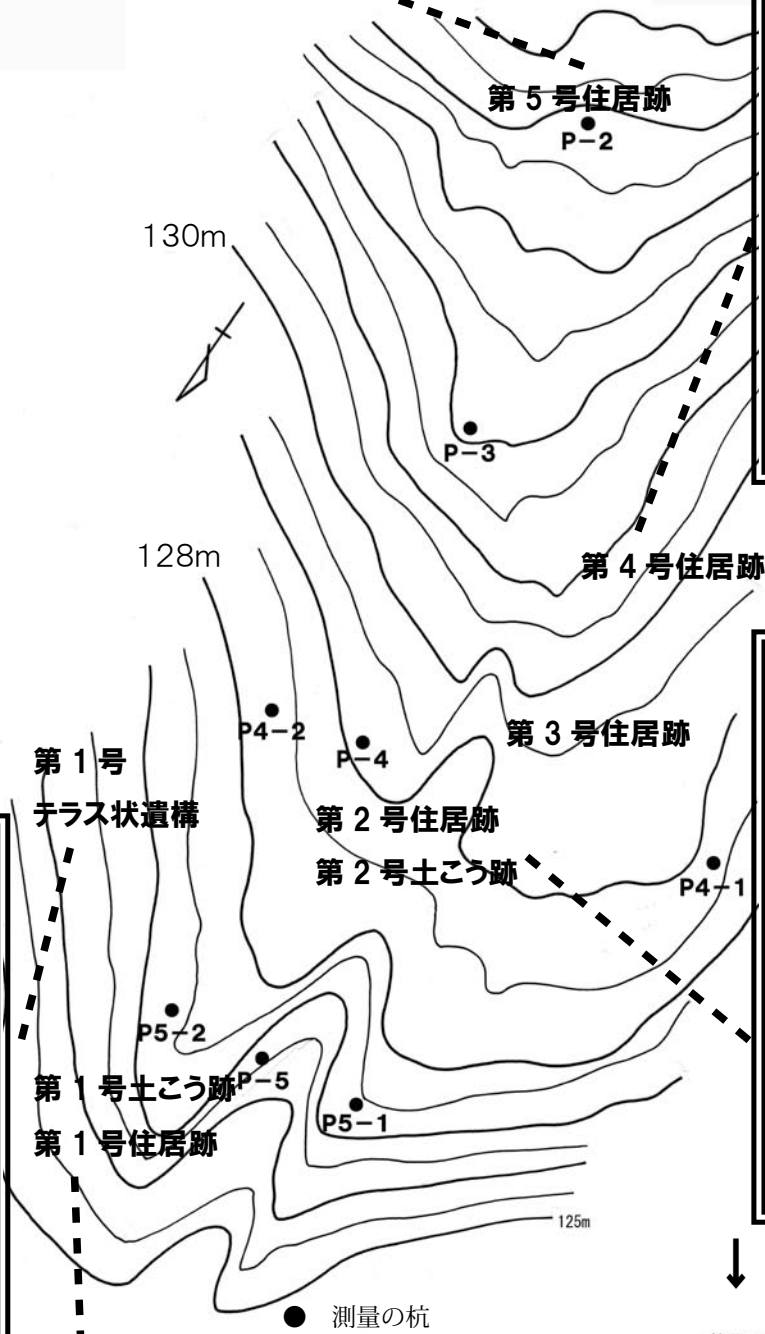
段之原山遺跡のむらを発掘！



石を平らにならべて、斜面をくずれにくくしており、弥生土器が出土しました。住居跡だと考えられます。



深く地山を掘りこみ平坦部を作り出しています。火をつかった跡やたくさんの弥生土器も見つかりました。当時の人々が暮らしていたあとでしょうね。



尾根の真ん中から出土した、竪穴住居です。広い床面を作り出しています。



焼土や炭がまとまって出土しました

山の斜面を大きく削って、大工事をし、平らな部分を作り出しています。その部分で火を燃やした跡が見つっていますが、いったい何をするために、作られたのでしょうか



？ 住居の中からは、生活に使った道具たち、例えば斧や、砥石などはほとんど出土しませんでした。土器の出土も多くありません。きれいに片付けて、引っ越していったのでしょうか・・・？



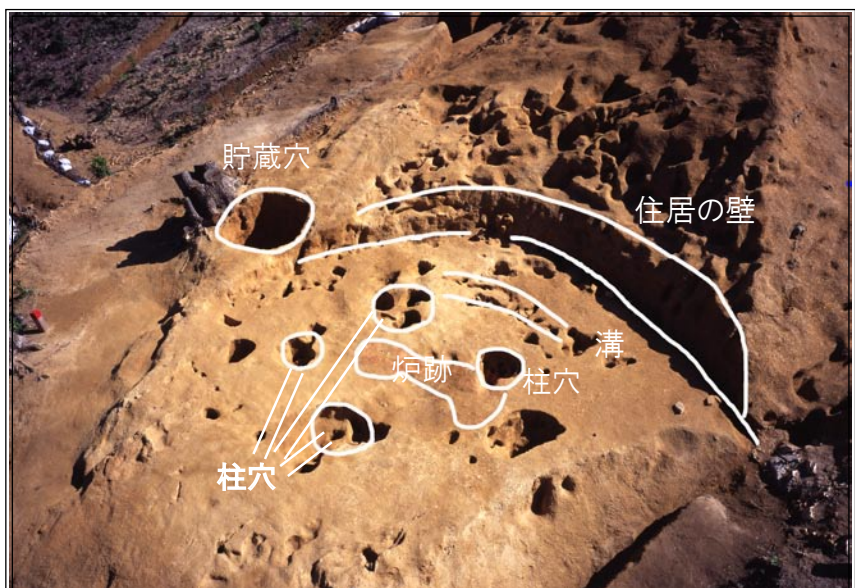
段之原山遺跡出土の土器を復元しているようす。



地面を掘りこみ底を平らにして床とし、屋根をふいた住居を竪穴住居とよびます。日本全国からこのような住居のあとが発掘されます。

貯蔵穴発見！

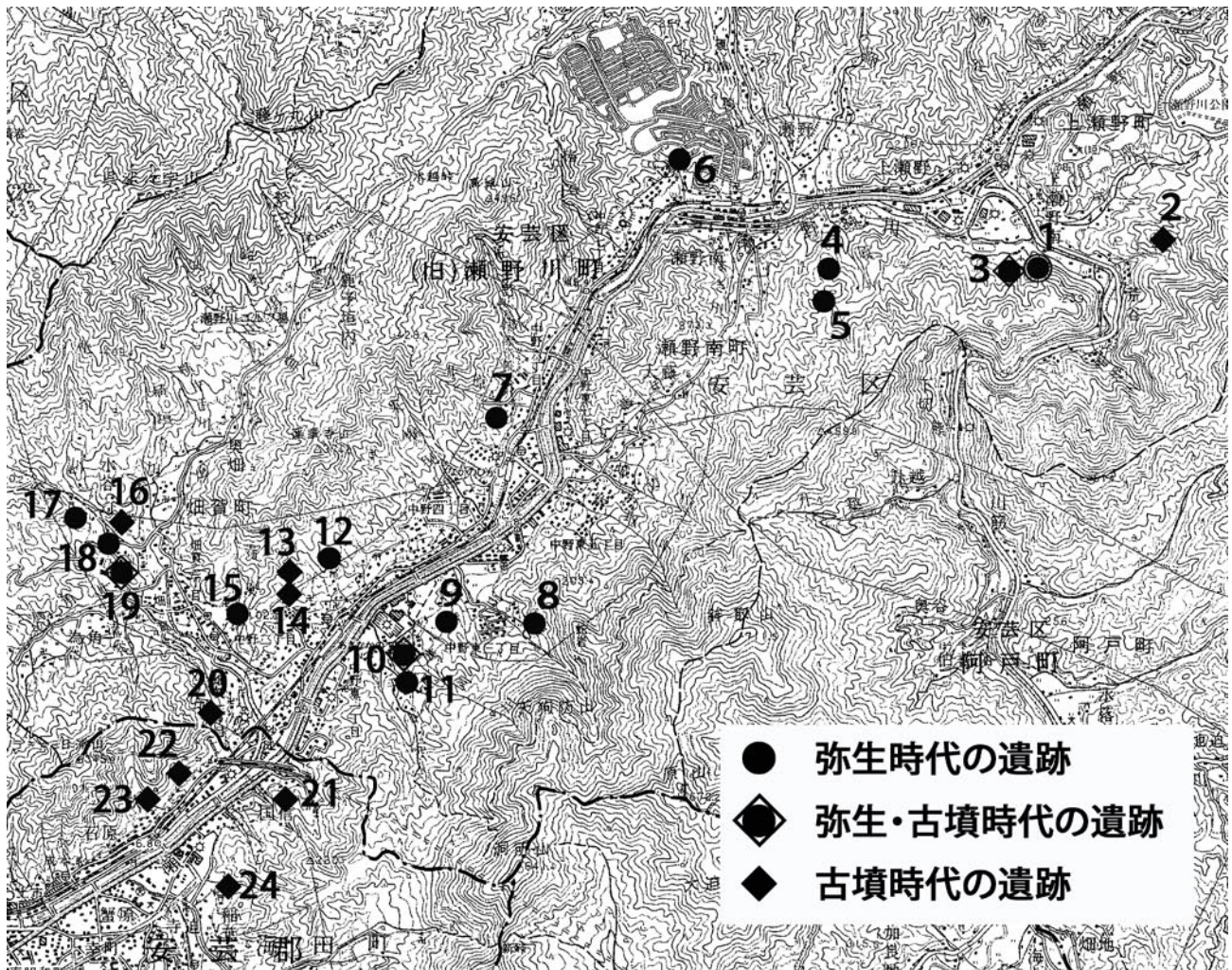
1軒の住居に1つの貯蔵穴。第2号住居跡にも同じような貯蔵穴が、家のすぐ脇に見つかりました。このムラの建築スタイルでしょうか。弥生時代の備え付け冷蔵庫？



貯蔵穴 住居の壁 溝 柱穴 炊跡

段之原山遺跡がおもに営まれた「弥生時代」は、およそ二千三百年前に始まります。米作りを中心とした新しい技術が中国大陸から伝わり、広がっていきました。それとともに、鉄の道具も伝わり、各地に広がっていきました。段之原山遺跡はこの弥生時代の終わりのころ、今から約千八百年前にこの地に住んでいた人々によって作られたムラです。

段之原山遺跡周辺の遺跡分布



- | | | | | | |
|----------|-------------|--------------|----------------|------------|---------|
| ① 段之原山遺跡 | 2 坊山古墳群 | 3 塔之原遺跡 | 4 坂山遺跡 | 5 一井木貝塚 | 6 桑原東遺跡 |
| 7 井原遺跡 | 8 三谷遺跡 | 9 山王貝塚 | 10 成岡A地点遺跡 | 11 成岡B地点遺跡 | |
| 12 川原地貝塚 | 13 大師堂裏山古墳群 | 14 大師堂裏古墳 | 15 本郷石棺群 | 16 中須賀古墳群 | |
| 17 水谷貝塚 | 18 水谷遺跡 | 19 中須賀神社境内遺跡 | 20 こもり塚古墳群 | | |
| 21 上安井古墳 | 22 春日神社境内古墳 | 23 畝観音免古墳群 | 24 出崎森八幡神社境内古墳 | | |

段之原山遺跡からは、竪穴住居5軒、貯蔵穴などが発掘されました。このムラの人々は硬い地山を苦勞して削り、けっして広くない尾根に直径6m程度の家をたて、ところせましと住んでいたようです。しかし苦勞をした割には、出土品から見ても長く住み続けたわけではなかったようです。いったい彼らはどこへ行ってしまったのでしょうか・・・

この遺跡から周りを見わたしてみると、熊野川に沿った地帯は日当たりもよく、良質な水田ができたことでしょう。この遺跡は、開拓団のようなムラだったのかも・・・？いずれにしても、瀬野川周辺のなかでも、上瀬野地区はなだらかで日当たりのいい水田が広がり、当時でも水が豊富でとても農業に向いていた場所だったに違いありません。今後この地域に新たに大きなムラのあとなどが発見されれば、広島古代史の解明がまた1歩進んでいくことでしょう。



(財) 広島市文化財団 文化科学部 文化財課

〒732-0052 広島市東区光町二丁目 15-36

TEL 082-568-6511 ホームページ <http://www.mogurin.or.jp>

FAX 082-568-6513 E-mail hbb@mogurin.or.jp